

蔵持重裕先生の略歴と主要業績

略歴

- 一九四八年 四月 東京都足立区に生まれる
- 一九六七年 三月 東京都立京橋高等学校卒業
- 一九六七年 四月 立教大学文学部史学科入学
- 一九七二年 三月 立教大学文学部史学科卒業
- 一九七二年 四月 株式会社新日本出版社入社（一九七五年一二月まで）
- 一九七七年 四月 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程入学
- 一九七九年 三月 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了
- 一九七九年 四月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程入学
- 一九八二年 三月 一橋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学
- 一九八一年 四月 国立歴史民俗博物館共同研究員（一九八七年三月まで）
- 一九八二年 四月 一橋大学経済学部助手（一九八三年三月まで）
- 一九八三年 四月 立教大学文学部非常勤講師（一九九六年三月まで）
- 一九八三年一〇月 豊島区立郷土資料館社会教育指導員（一九八七年一月まで）
- 一九八五年 四月 立教大学一般教育部非常勤講師（一九九四年三月まで）
- 一九八六年 四月 静岡県小山町史編纂専門委員（一九九五年三月まで）
- 一九八八年 四月 一橋大学非常勤講師（一九九四年三月まで）
- 一九九〇年 四月 本郷高等学校非常勤講師（一九九四年九月まで）
- 一九九二年 四月 相模女子大学学芸学部・短期大学部非常勤講師（一九九四年九月まで）

- 一九九四年 四月 立教大学大学院文学研究科非常勤講師（一九九五年三月まで）
- 一九九四年一〇月 滋賀大学経済学部附属史料館助教授（一九九八年三月まで）
- 一九九四年一〇月 滋賀県彦根市史専門部会委員（二〇〇二年三月まで）
- 一九九七年 四月 滋賀県近江八幡市文化財保護審議会委員（一九九九年三月まで）
- 一九九七年 四月 国文学研究資料館助教授（併任）（一九九九年三月まで）
- 一九九八年 四月 滋賀大学経済学部助教授（一九九八年六月まで）
- 一九九八年 三月 博士学位取得（文学 立教大学）
- 一九九八年 七月 滋賀大学経済学部教授（一九九九年三月まで）
- 一九九九年 四月 立教大学文学部教授
- 二〇〇〇年 四月 国文学研究資料館共同研究員（二〇〇八年三月まで）
- 二〇〇一年 四月 聖徳大学非常勤講師（二〇〇三年三月まで）
- 二〇〇三年 四月 聖徳大学通信教育学部非常勤講師
- 二〇〇四年 四月 立教大学文学部史学科長（二〇〇六年八月まで）
- 二〇〇四年 四月 慶應義塾大学文学部非常勤講師（二〇〇六年三月まで）
- 二〇〇七年 四月 立教大学大学院文学研究科史学専攻主任（二〇〇九年三月まで）
- 二〇〇七年 四月 立教大学日本学研究所長（二〇〇九年三月まで）
- 二〇〇八年 七月 東北学院大学非常勤講師
- 二〇〇八年一二月 新座市文化財保護審議会委員
- 二〇一四年 三月 立教大学退職
- 二〇一四年 六月 立教大学名誉教授

藏持重裕先生の略歴と主要業績

研究業績

【著書・共編著】

- 『三芳町史 通史編』〔編著〕（埼玉県三芳町、一九八六年十二月）
『豊島・宮城文書』〔編著〕（豊島区立郷土資料館、一九八八年三月）
『小山町史 第一巻原始古代中世資料編』〔編著〕（静岡県小山町、一九九〇年三月）
『大畑町史』〔編著〕（青森県大畑町、一九九二年二月）
『小山町史 第六巻原始古代中世通史編』〔編著〕（静岡県小山町、一九九六年三月）
『日本中世村落社会史の研究』〔單著〕（校倉書房、一九九六年十一月）
『新修彦根市史 第五巻史料編 古代・中世』〔編著〕（彦根市、二〇〇一年三月）
『中世村の歴史語り』〔單著〕（吉川弘文館、二〇〇二年九月）
『莊園と村を歩くⅡ』〔編著〕（校倉書房、二〇〇四年一月）
『歴史をよむ』〔編著〕（東京大学出版会、二〇〇四年一月）
『中世村落の形成と村社会』〔單著〕（吉川弘文館、二〇〇七年四月）
『声と顔の中世史 戦さと訴訟の場景より』〔單著〕（吉川弘文館、二〇〇七年五月）
『再考中世莊園制』〔編著〕（岩田書店、二〇〇七年一月）
『中世の紛争と地域社会』〔編著〕（岩田書店、二〇〇九年五月）
『紛争史の現在』〔編著〕（高志書院、二〇一〇年一月）

【論文】

- 『百姓申状』の性格について』『立教日本史論集』（創刊号、一九八〇年一月）
『莊園古老法』の展開と莊園制―太良莊における検断―』『歴史評論』（三七四号、一九八一年六月）後に『展望日本歴史』一〇南北朝内乱 所収（東京堂出版、二〇〇〇年二月）

- 「太良荘における名主家族結合と名主職」『歴史学研究』（五〇六号、一九八二年七月）後に『日本家族史論集5家族の諸相』所収（吉川弘文館、二〇〇二年九月）
- 「豊島氏領域における豊島区域」豊島区立郷土資料館紀要『生活と文化』（二号、一九八五年八月）
- 「中世史における地域史研究の動向」『地方史研究』（二〇〇号、一九八六年四月）
- 「尋沙汰について」豊島区立郷土資料館紀要『生活と文化』（二号、一九八六年二月）
- 「江戸期の川口屋」豊島区立郷土資料館紀要『生活と文化』（二号、一九八六年二月）
- 「中世古老の機能と様相」『歴史学研究』（五六三号、一九八七年一月）
- 「中世の土地所有観と名田」『史苑』（四六卷一・二号、一九八七年五月）
- 「戦後マンガ史の一局面」『歴史評論』（四四九号、一九八七年九月）
- 「小山町の宝篋印塔・五輪塔（一）」『小山町の歴史』（二号、一九八八年三月）
- 「富士本宮浅間神社蔵「富士参詣曼荼羅」について」『小山町の歴史』（二号、一九八八年三月）
- 「豊島・宮城文書について」『豊島・宮城文書』（豊島区郷土資料館、一九八八年三月）
- 「地域史と歴史研究」『国分寺市公民館だより』（二七九号、一九八九年二月）
- 「一九八九年歴史学研究会大会坂田報告批判」『歴史学研究』（六〇一号、一九八九年二月）
- 「大田荘故地赤屋村における近世初期の耕地形態と動態」『国立歴史民俗博物館研究紀要』（二八集、一九九〇年三月）
- 「大田荘故地における百姓屋敷」『国立歴史民俗博物館研究紀要』（二八集、一九九〇年三月）
- 「内乱期の社会変動」『古文書の語る日本史 4 南北朝室町』（筑摩書房、一九九〇年五月）
- 「中世村落をいかに把握するか」『争点日本の歴史 第4卷中世編』（新人物往来社、一九九一年二月）
- 「小山町域の宝篋印塔・五輪塔について」『小山町の歴史』（五号、一九九一年三月）
- 「大慈恩寺の紛失状」本郷中等学校紀要『塔影』（二四集、一九九一年三月）
- 「村落における公と私」『日本村落史講座第6卷生活Ⅰ』（雄山閣、一九九二年一月）
- 「村落と女性」『中世を考える家族と女性』（吉川弘文館、一九九二年四月）

藏持重裕先生の略歴と主要業績

- 「刈田狼藉の本源 日本中世における土地と人の関係」『中世の発見』（吉川弘文館、一九九三年四月）
- 「年貢・公事をめぐる領主と村落の関係をどうみるか」『新視点日本の歴史 4 中世編』（新人物往来社、一九九三年六月）
- 「菅浦の清九郎」『日本の歴史を解く1000人』（文英堂、一九九五年九月）
- 「村落史の視点から「地域論」を考える」『日本史研究』（四〇七号、一九九六年七月）
- 「海浜の荘園」『荘園と村を歩く』（校倉書房、一九九七年六月）
- 「菅浦惣成立の特質」『悪党の中世』（岩田書店、一九九八年三月）
- 「中世の村と情報」『歴史学研究』（七一六号、一九九八年一月）
- 「中世村落と和泉国黒鳥村」『村のなかの古代史』（岩田書店、二〇〇〇年三月）
- 「山地葛川の「塚相論」と村落」『山間村落における交流の総合的研究』（文部省科学研究費補助金 基盤研究C一課題 番号一〇六一〇三三五代表小林一岳、二〇〇一年二月）
- 「中世石造物と惣墓の研究」『福武学術文化振興財団平成二二年度年報』（二〇〇一年一月）
- 「海洋社会として対馬」『島嶼文化』（二〇号、二〇〇二年八月）
- 「中世の木嶋地域の村と座について」『開発・環境の変化による山村・里村間の情報・交流と摩擦の研究』（平成二二―四年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書（課題番号一六六一〇三三四）、代表藏持重裕、二〇〇三年三月）
- 「対馬調査報告 対馬の村を追って」『立教大学日本学研究所年報』（二号、二〇〇三年三月）
- 「初期代官の豊島氏」『豊島氏編年史料Ⅲ』（豊島区郷土資料館、二〇〇三年三月）
- 「民衆生活の基底」講座日本荘園史 3 荘園の構造（吉川弘文館、二〇〇三年五月）
- 「在村給人初村氏の知行地について」『荘園と村を歩くⅡ』（校倉書房、二〇〇四年一月）
- 「顔と平和」『歴史をよむ』（東京大学出版会、二〇〇四年一月）
- 「日本中世の商業関係文書について」東京外国語大学大学院地域文化研究科21世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化拠点」『史資料ハブ 地域文化研究』（七号、二〇〇六年三月）
- 「荘園制・中世社会について―所有論の視点から―」『再考中世荘園制』（岩田書店、二〇〇七年一月）

「和知荘における下地中分と地頭片山氏」『山間荘園の地頭と村落』(岩田書店、二〇〇七年十二月)
「コラム 日本中世村落」『中近世アーカイブズの多国間比較』(岩田書店、二〇〇九年四月)
「国人領主の憂いと浮かれ 煌めく都からのたより―波多親の手紙―」立教大学人文叢書5『書簡を読む』(春風社、二〇〇九年一〇月)

「紛争の解決と階級関係」『中世の紛争と地域社会』(岩田書店、二〇〇九年五月)
「むすびにかえて」『紛争史の現在』(高志書院、二〇一〇年一〇月)

「禪定寺領の山野と村人」『京郊圏の中世社会』(高志書院、二〇一一年九月)

「金を掘る村の人々の成り立ち ノート」『産金村落と奥州の地域社会』(岩田書店、二〇一二年十一月)

「中世社会の特質を再確認する―大会報告を聞いて―」『史苑』(七二巻二号、二〇一二年三月)

「永祿十一年菅浦壁書について」『滋賀大学経済学部付属史料館研究紀要』(四六号、二〇一三年三月)

「敗北」の惣村」『立教大学日本学研究所年報』(一〇・一一合併号、二〇一三年三月)

「二〇一二年国際シンポジウム「日本学の現在と未来」総括 第一セッション「アジアへの視点と言説」総括」『立教大学日本学研究所年報』(一二号、二〇一四年七月)

「近江国大浦の浦法と幕府権力」『立教大学日本学研究所年報』(一二号、二〇一四年七月)

【書評】

「稲垣泰彦著『日本中世社会史論』『歴史学研究』(五〇九号、一九八二年一〇月)

「山本隆志『荘園制の展開と地域社会』『日本史研究』(三九五号、一九九五年七月)

【その他】

『絵で読む日本の歴史 三 武士と農民』〔編著者〕(大月書店、一九九〇年一月)

『絵で読む日本の歴史 別巻 解説』(大月書店、一九九〇年十二月)

【史料調査報告】

- 「中世菅浦文書について（一）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（二八号、一九九五年三月）
- 「中世菅浦文書について（二）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三〇号、一九九七年三月）
- 「中世菅浦文書について（三）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三一号、一九九八年三月）
- 「中世菅浦文書について（四）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三二号、一九九九年三月）
- 「中世菅浦文書について（五）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三四号、二〇〇一年三月）
- 「中世菅浦文書について（六）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（三六号、二〇〇三年三月）
- 「中世菅浦文書について（七）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四一号、二〇〇八年三月）
- 「中世菅浦文書について（八）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四二号、二〇〇九年三月）
- 「中世菅浦文書について（九）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四三号、二〇一〇年三月）
- 「中世菅浦文書について（一〇）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四五号、二〇一二年三月）
- 「中世菅浦文書について（一一）」『滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要』（四七号、二〇一四年三月）